

# SHIBUYA COP2024

REPORT / 2024.11.29 FRY



イベント概要	1
参加者データ&メッセージ	2
TALK SESSION 1   COP29報告会	3
TALK SESSION 2   GX人材育成の国際潮流とこれからの日本	4
TALK SESSION 3   生物多様性を豊かにする都市づくり	5
SPECIAL SESSION   GXを加速させるスポーツ界の社会貢献	6
大交流会	7

**SWITCH**

一般社団法人SWITCH

# SHIBUYA COP2024

## 地球ひとつで暮らすためのトークセッション&大交流会

### イベントの目的

「SHIBUYA COP」は、毎年COP(国連気候変動枠組条約締約国会議)に合わせて開催しており、今年で4年目を迎えます。地球1つで暮らしていくための世界の潮流を伝え、暮らしや仕事の中でのアクションにつなげることを目的として開催しています。国連加盟国の多くがパリ協定「世界の平均気温上昇を1.5°C以下に抑える」目標に本気で取り組んでおり、成功している地域では、若者との対話を組み込むことが当たり前となっています。渋谷が国際的に注目されるサステナブル都市となるために何をすればいいか、COP29参加者がアゼルバイジャンでの最新情報を紹介し、若者 x 企業(団体) x 自治体 x アカデミアの共創のきっかけを作ります。

### イベント概要

観測史上最も暑い夏を体験し、誰もが地球環境に注目する中、COP29で何が議論され、世界のルールはどのように変わっていくのか。企業や個人はいかに世界の潮流をつかみ、どのようなアクションを起こしていけばよいか。第4回目となる「SHIBUYA COP」は、4つのトークセッションを行いました。COP29アゼルバイジャンに現地参加した企業の代表メンバーたちが登壇しCOPの最新情報を共有したり、先進的に環境課題に取り組む企業や団体の方々をお招きし、環境教育や都市の生物多様性、スポーツと気候変動について対話しました。若者・企業(団体)・自治体・アカデミア、世代や業界を越えて対話と交流を行いました。

開催日時	2024年12月29日(金) 17:30-20:30
開催形態	ハイブリッド開催
参加者合計	累計325名(会場参加:133名/オンライン参加:192名)
会場	SHIBUYA QWS 渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア15階

### アーカイブ動画



### GUEST SPEAKERS

#### TALK SESSION 1 | 17:40-18:20

#### COP29参加企業から最新情報



(株)日立製作所  
津田 恵



(株)電通グループ  
荒木 文志



パナソニック  
ホールディングス(株)  
下野 隆二



サントリーホール  
ディングス(株)  
岩井 宏之



日本電気(株)  
佐藤 美紀



SWITCH  
佐座 慎苗

#### TALK SESSION 2 | 18:20-19:00

#### GX人材育成の国際潮流と これからの日本



デンマーク  
王国大使館  
マヤ ソフィー  
ブアゴ



(株)ベネッセ  
ホールディングス  
豊泉 桂子



GX推進機構  
高田 英樹



環境省  
黒部 一隆



SWITCH  
広瀬 知弘

#### TALK SESSION 3 | 19:00-19:40

#### 生物多様性を豊かにする都市づくり



東急不動産  
ホールディングス(株)  
眞明 大介



東京大学  
江守 正多



丸紅ギャラリー  
杉浦 勉



SWITCH  
佐座 慎苗

#### SPECIAL SESSION | 19:40-20:10

#### GXを加速させるスポーツ界の 社会貢献



FC TOKYO  
須藤 義徳



鹿島アントラーズ  
番矢 大輝



東京大学  
江守 正多



渋谷区長  
長谷 部健

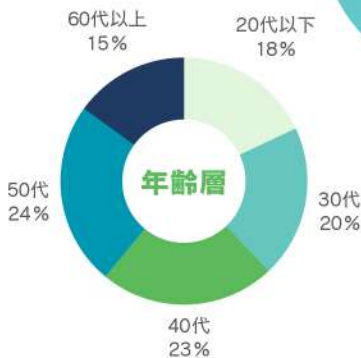
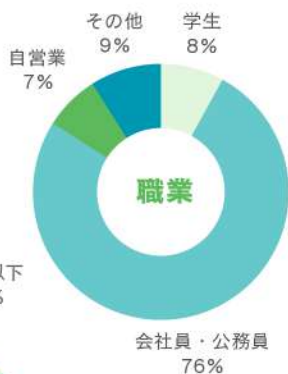


SWITCH  
園 林 悟



所属する教育機関・団体

- 株式会社ゴールドウィン
  - 株式会社ディー・エヌ・エー
  - 株式会社ニチレイ
  - 株式会社バルコ
  - 株式会社ベネッセホールディングス
  - 株式会社読売広告社
  - 株式会社博報堂
  - 三井デザインテック株式会社
  - 三井不動産株式会社
  - 西日本鉄道株式会社
  - 石屋製菓株式会社
  - 全日本空輸株式会社
  - 大阪ガス株式会社
  - 中越パルプ工業株式会社
  - 東急株式会社
  - 東急不動産株式会社
  - 東急不動産ホールディングス株式会社
  - 東京ガスコミュニケーションズ株式会社
  - 日本経済新聞社
  - 豊田通商株式会社
  - 味の素AGF株式会社
  - 株式会社オリコム株式会社NTTドコモ
  - UCCジャパン株式会社
  - YKK株式会社
  - 株式会社NHKエンタープライズ
  - 株式会社NTTデータグループ
  - 朝日新聞社
  - 株式会社ニコン
  - 株式会社電通
  - 株式会社日立製作所
  - サントリーホールディングス株式会社
  - ダイキン工業株式会社
  - 東レ株式会社
  - パナソニックホールディングス株式会社
  - バリュエンスジャパン株式会社
  - モリソン・フォスター法律事務所
  - 花王株式会社
  - 株式会社ウェザーニューズ
  - 東京大学未来ビジョン研究センター
  - Climate Youth Japan
  - Circular cotton factory
  - 国土交通省都市局都市環境課
  - 環境省
  - 一般社団法人プロギングジャパン
  - 公益財団法人ベネッセこども基金
  - 横浜市役所
  - 一般社団法人SDGs in Sports
  - 東京都中小企業診断士協会
  - 一般財団法人渋谷区スポーツ協会
  - 公益財団法人日本サッカー協会
  - 日欧産業協力センター
  - N高等学校
  - 高知高専
  - 神村学園高校
  - 神奈川県立松陽高等学校
  - 雙葉高校
  - 國學院大學研究開発推進機構
  - 学習院女子大学
  - 国際基督教大学
  - 東京大学
  - 東京大学工学部
  - 早稲田大学
  - 三重大学
- 順不同/他多数



主催 SWITCH 一般社団法人SWITCH

共催 渋谷未来デザイン 一般社団法人渋谷未来デザイン

協賛 WE ARE GREEN 東急不動産ホールディングス株式会社

助成 HITACHI Inspire the Next 株式会社日立製作所

Scandinavia Japan Sasakawa Foundation スカンジナビア日本ササカワ財団

後援 環境省

ちがいを ちからに 変える街。 渋谷区 Shibuya City

協力 futureearth Research, Innovation, Sustainability. Future Earth

SHIBUYA QWS SHIBUYA QWS

TORAY 東レ株式会社

OPENING MESSAGE | 国際的に活躍する若者からのメッセージ

Jevanic Henry Member of the UN Secretary General's Youth Advisory Group on Climate Change



Jevanic Henry

Member of the UN Secretary General's Youth Advisory Group on Climate Change

私たちは今、気候危機の緊急性とその対策の重要性を強く認識する時代を生きています。気候教育は、この行動を加速する鍵となるものであり、私たち大人世代が、子どもたちに適切な気候教育を届ける責任を果たすことが重要です。そのためには、正式な学校教育だけでなく、非公式な教育の場にも気候教育を組み込む努力が求められます。また、気候はあらゆる分野に影響を及ぼすため、気候と他の分野を結びつけることが不可欠です。子どもの頃から気候を軸に物事を考える習慣を身につけることで、行動がより促進されると確信しています。

Presented by 株式会社日立製作所

株式会社  
日立製作所

津田 恵

株式会社  
電通グループ

荒木 丈志

パナソニック  
ホールディングス  
株式会社

下野 隆二

サントリーホール  
ディングス株式会社

岩井 宏之

日本電気  
株式会社

佐藤 美紀

SWITCH  
代表理事

佐座 横苗



COP29に参加した企業がCOP28で採択された最新情報や、COP会場で感じた日本への期待など、最新情報をお届けします。

## COP29に参加して

**津田** COP23から7年連続で参加。気候基金や市場メカニズム等大きなテーマが着実に進む中、アゼルバイジャンの堅実な運営もあり落ち着いた雰囲気でした。日立は、DXでウェルビーイングとプラネタリーバウンダリーを推進。不確実な気候変動に対応する洪水シミュレーターやデータセンター分散制御を日本パビリオンで展示し、体験型で対話を図りました。

**荒木** COP24から環境省のジャパンパビリオンの運営を依頼されていました。各国はセミナーが主体ですが、日本は技術の展示が多く、多くの参加者の興味を引いていました。又非常に熱気を感じられました。

**下野** COP24からプレゼンス向上を目的に参加し、次第に事業機会の探索も加わりました。COP27以降は、長期ビジョン「Panasonic GREEN IMPACT」のキモである削減貢献量を発信する戦略的コミュニケーションの場として位置づけています。

**岩井** 初参加の今回のCOPは、情報収集が主目的でした。普段は、企業として削減（Mitigation）を重視する一方、COP会場では緊急課題として緩和政策（Adaptation）が強調されており、そのギャップが印象的でした。

**佐藤** NECとして2回目の参加となり気候変動の適応を 技術で促進することを提言しました。3月に設立した適応ファイナンスコンソーシアムの社会実装に向けた進捗を発表し、国際機関から高い関心を 得ました。画像認識やAI技術を活用し適応策の経済価値を可視化する取り組みを進めています。

## COP29のキーワードについて

**岩井** 「ファイナンスのCOP」と呼ばれた今回は、途上国からの総額に対する不満に加え、先進国としてはどのように使われるのかという声もあり、受ける側と出す側にギャップがあることを感じました。

**佐藤** 途上国からは気候変動の適応は喫緊の課題である こと、先進国からは気候変動資金の迅速な投下に向けて技術活用と金融の高度化が重要との発言が目立ちました。気候変動対策としての日本の事前 防災へ期待も強く感じました。

**下野** アメリカではトランプ政権への移行という大きな変化が予想される中で、「IRA」（インフレ抑制法）に注目しています。私は「削減貢献量推進法」と理解し、脱炭素産業への投資の行方に関心があります。又会場であるCEOの、50年まで、いくつ政権が変わるとも、企業としての脱炭素化への貢献は変わらないというコメントに共感し、私どもとしても同様に推進して参りたいと思います。

**津田** Adaptation（適応）とMitigation（緩和）、日立としてパビリオンで紹介しました。データセンター向けのエネルギーソリューションと洪水シミュレーターの展示です。全世界から関心が集まり、緊急課題であることを実感しました。

**荒木** 昨年くらいから適応技術の展示が多くなっていると感じます。削減技術も合わせて日系企業の環境技術への期待と関心は間違いなく多いです。

Presented by スカンジナビア日本ササカワ財団



デンマーク  
王国大使館  
マヤ・ソフィー  
ブアオー

株式会社  
ベネッセホール  
ディングス  
豊泉 桂子

GX推進機構  
高田 英樹

環境省  
黒部 一隆

SWITCH  
学生メンバー  
広瀬 知弘



環境教育や、GX人材の育成、社会全体のGX化に取り組む皆様から、環境教育の将来ビジョンと、ビジョンの達成に向けてすべきことを明らかにします。

### GX人材育成に向けた将来ビジョン

**マヤ・ソフィー** デンマークでの教育の目標は、子どもたちに主権者として民主主義に関わってもらうことです。そのため、社会課題に対して若者がエンパワメントされる環境が整えられています。サステナビリティは、デンマークで大きな注目を集めている社会課題の一つであり若者は集団で行動を始めています。現在90%のデンマーク人がこどもたちへのサステナビリティ教育が必要であると考えています。

**豊泉** ベネッセでは事業特性を活かした環境教育に取り組んでいて、「こどもちゃれんじ」や「しまじろうのわお！」など映像コンテンツや自然への愛着を深める教材の提供を行っています。また、20年にわたるこども向け環境コンクールの開催やSDGsを題材にした探究教材などこどもの年齢に応じた事業を提供しています。座学から体験へ、中央から地域へ、個人から他者とのシェアやコミュニティへと、これまでと異なる学びの形を目指し、その事例として直島（香川県）での教育活動を展開しています。

### GX人材育成の社会実装

**高田** GX推進機構は2050年までの脱炭素化と産業競争力強化を両立することを目標に、官民150兆円の投資・投資支援（債務保証など）を実施します。投資のほかに、世界初のGX移行債発行や排出権取引、カーボンライシングなどの取り組みを含むものであり金融を通じたGX推進を行います。GXを成功させるために企業のハブとして「アカデミー」と呼ばれる企画を通じて、企業担当者の人材育成にも注力して取り組んでいます。

**黒部** 学校現場での尽力もあり授業数や探究活動などで環境教育は日本においてかなり浸透しています。しかし、それら教育の成果はエコ活動の実施などにとどまっており社会に変革を及ぼす教育までは実現できていません。学校での「教育」だけでなく、地域でのソーシャルアクション実施など幅広い「行動」をエンパワーメントすることが大事なのではないでしょうか。

**マヤ・ソフィー** デンマークで気候変動は社会の存続に関わる問題として扱われています。新しく大規模な投資を生み出すことと、こどもと大人が手を組んだ大きなアクションが必要であると感じました。

**豊泉** 教育は最終的には世界の平和のためにあると考えています。知識を与えるだけではなく、本当に将来に良い環境を生み出すことができる教育を大人の力を加えながら作っていかなければならないでしょう。

**高田** GX人材育成において、一部の先導的な人材を生み出すことだけでは不十分で、環境配慮商品を消費者が進んで買うようになるような社会的な雰囲気醸成できる環境教育が重要になってくると考えている。

**黒部** 今後は「教育」のように一方的な教える-教わるの関係だけではなく、マヤさんが紹介されたようにこどもたちと大人と同じステークホルダーとして一緒に社会の課題に取り組み学び合うことが重要であると認識しています。

Presented by 東急不動産ホールディングス株式会社



東急不動産  
ホールディングス  
株式会社  
眞明 大介

東京大学  
未来ビジョン  
研究センター  
江守 正多

丸紅  
ギャラリー  
杉浦 勉

SWITCH  
代表理事  
佐座 楨苗



対話を通してエコロジカルネットワークの構築、ウェルビーイングを意識したまちづくり、人と自然をつなぐアートについて紹介します。

### 生物多様性の取り組みについて

**眞明** 東急不動産は、1984年にパラオで環境保全型リゾートをスタートし、50年に渡り環境先進事業者として、環境課題に取り組んでいます。大きく脱炭素社会、循環型社会、生物多様性の3つの取り組みを行っています。

**江守** 少子高齢化の進む21世紀の日本の都市の特徴は、環境対策を進め、高いウェルビーイングを目指す社会が望ましいと思います。それには里山活動等を加えた地域コミュニティの健康、自然の健康、人の健康を目指す三方良しの健康長寿まちづくりが役に立ちます。

**杉浦** 環境にも地球環境、防災環境、生活環境、文化教育環境等があります。大使として赴任したブルキナファソは、4000頭の象や神聖な生物と言われるナマズ、ワニ、更に珍しい樹木がある植物の多様性のある国でした。その地で、100年に1度の大洪水が起きた際、防災対策のために重機の引き渡しや、植樹や森林保全等を行いました。その後フランス赴任し、日仏ブルキナファソの子供たちの環境問題を学ぶ、子供環境広場を開催しました。フランスではバルビゾン派の画家たちが、19世紀の半ばに自然環境運動を行っています。

**眞明** エコロジカルネットワークと称して、点在する緑地を建物緑化で繋いで、人と自然が共生できる街づくりを進めています。環境問題を解りやすくするために、東急表参道の屋上で、2012年以来、鳥類や昆虫のモニタリングを実施。毎年種類が増えています。シジュウカラは、生態系が整っているかどうかを示す環境指標種ですが、昨年よりシジュウカラの邸宅を企画し、今年度は三回程入居してくれました。

**杉浦** 2019年にフランスの芸術家達の未来へのメッセージであるプティユ・ア・ラメールに参加しました。私のメッセージは『身近な人や自然を慈しむことが私たちの力になる』ということなのですが、シジュウカラの邸宅もそれに繋がるような企画だと思いました。

**江守** CO2を削減する指標のある気候変動対策と比較すると生物多様性の取り組みや評価は難しいですが、このような皆が興味を持てる具体的な取り組みは良いと思います。

### アートや文化から生物多様性を

**杉浦** 人と人のつながり、そして平和は重要です。フランスの森の例ですが、古いものの復興、そして松等の単一な森でなく、多様な種類の森づくりを目指していくのも良いと思います。

**江守** 東急不動産の取り組みで、生物が戻ってきているのですが、それがどこから来ているのかを把握して、繋がりを意識することが大切です。人も都会から出かけて行き、より自然とのつながりを作ることにより健康になれるのではないかと思います。

**眞明** 「環境問題」と聞くと難しいものとして捉えてしまいがちです。環境をエンタメのように、活動を楽しみながら進めて行ければと思います。

## PITCH &amp; CROSS TALK



鹿島  
アントラーズ  
番矢 大輝

FC TOKYO  
須藤 義徳

東京大学  
未来ビジョン  
研究センター  
江守 正多

渋谷区長  
長谷部 健

SWITCH  
学生メンバー  
園林 悟

サッカーチームによるGXに向けた先進的な取り組みをピッチで紹介。さらに渋谷のGXでスポーツに期待されている役割についてクロストークで話し合いました。

## PITCH

**須藤** FC東京は「東京ソーシャルコラボレーション」を立ち上げ、健康や教育、街づくりなど社会課題に取り組むコミュニティを形成。スタジアムで環境イベントや地産地消農産物の販売、ゴミ拾い、リサイクル、フードドライブを実施し、地域の子供たちと収穫体験を通じて持続可能な社会づくりを目指しています。

**番矢** 鹿島アントラーズは200以上の企業と連携し、再生素材の活用やペットボトルリサイクル、横断幕のグッズ化などスタジアムでの環境活動を推進しています。廃油を再生可能航空燃料に転換する地域特性を活かした新プロジェクトも計画中です。クラブの強みであるファンの熱狂を活用し、行動変容を広げることを目指しています。

**園林** ファンやスポーツビジネスといった多くの関係者を持つスポーツ界が気候変動対策に向けて本気で動き出せば、その影響力は非常に大きいと思います。こうした動きが他のチームやスポーツにも広がることを期待しています。

## CROSS TALK

**江守** 気候変動の影響で夏は暑さや大雨で試合中止が発生したり、冬は雪不足や雪質の低下でウィンタースポーツが打撃を受けています。こうした状況を受け、世界中でスポーツチームや選手が気候変動対策に取り組み始めています。ユニフォームのアップサイクルやクラブ運営における再生可能エネルギーの活用がその一つです。スポーツ業界は影響を訴えると同時に、持続可能性を推進する役割にあると考えています。

**長谷部** 渋谷区では地域型スポーツの発展を目指し、課題と新たな取り組みを進めています。公立中学校の部活動縮小や指導者の不足により、スポーツが根付かない現状があり、地域型クラブ「渋谷ユナイテッド」を設立して活動を支援しています。eスポーツ活動の展開、専門学校と連携した料理教室の開催など、地域特性を活かした多様な活動が特徴です。地域に開放する温水プールの増設も計画していますが、運営コストやエネルギー消費の増加が課題です。今後、地方との連携や発電・エネルギー政策への関与を含め、持続可能な形でのスポーツ推進を模索しています。

**江守** Future EarthがCOPに合わせて毎年発表している「10 New Insights in Climate Science」は、気候変動政策の成否が「公正さ」の認識に大きく依存する点を指摘しています。気候変動対策には個人の努力だけでなく、社会全体のシステム変革が求められ、政策の導入が不可欠です。しかし、政策導入時には、「自分にとって不公平」と感じる人が反対する場合があります。賛成者が反対意見を無理解や疑念とみなすのではなく、彼らの背景や不安を理解し、建設的な対話を通じて合意形成を図ることが重要です。この視点が、気候変動問題への社会全体の取り組みを円滑に進める鍵であると考えています。

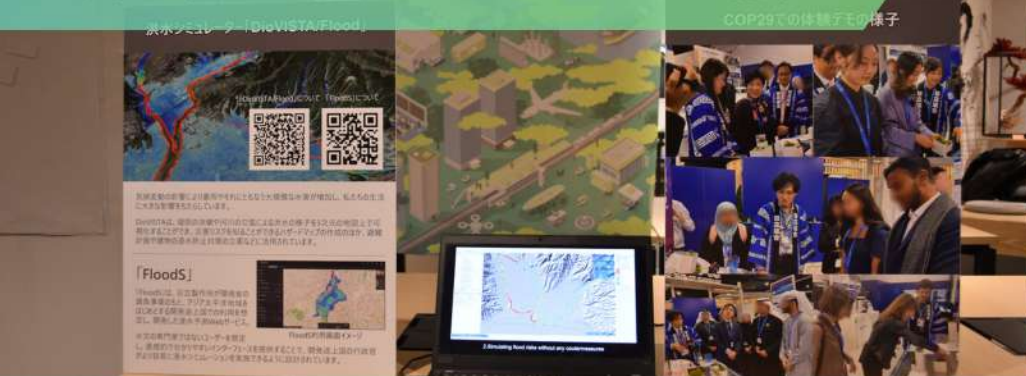
**長谷部** 合意形成を通じて物事を前進させるのは難しいことです。特に政治でも、気候政策で意見が分かれる例が多いです。しかし、行政には反対意見を尊重しつつも最終的には進める責任があります。多様性の社会は「全員の意見が通る」ことではなく、調和を前提とし、個人が多少の譲歩を受け入れることで成り立つもの。実現が困難に感じることもありますが、地球の持続可能性という目標を共有し、互いにバランスを取り、少しずつ前進したいと考えています。

# SHIBUYA COP2024

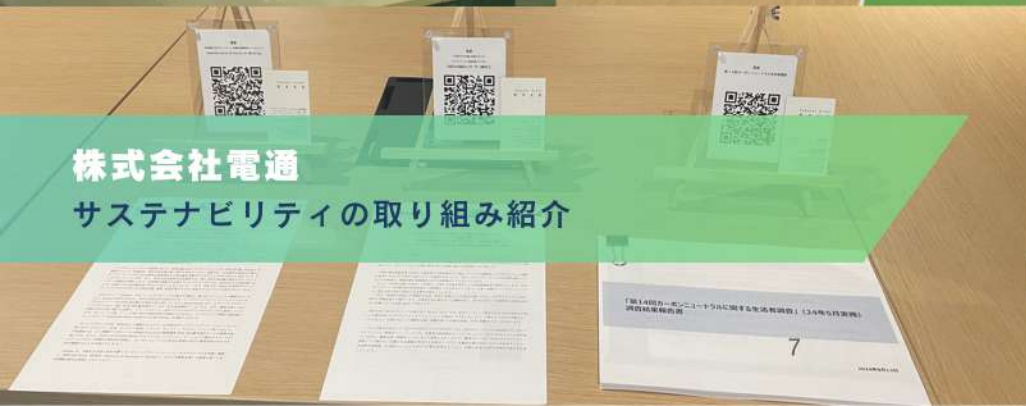
大交流会 @COP29&企業取り組み紹介ブース



## 株式会社日立製作所 洪水シミュレーター「DioVISTA/Flood」の紹介



## 株式会社電通 サステナビリティの取り組み紹介



# SWiTCH

地球ひとつで暮らしていくために



## SWiTCH

一般社団法人 SWiTCH

SWiTCHは、「地球1つで暮らしていく」ために  
若者と大人世代が共創するプラットフォームです。



公式サイト：  
[https://switch.bio/  
contact@switch.bio](https://switch.bio/contact@switch.bio)



イベント公式サイト：  
[https://switch.bio/  
shibuyacop2024/](https://switch.bio/shibuyacop2024/)

お問い合わせ先：[contact@switch.bio](mailto:contact@switch.bio)